

II. 海底地形

今回の調査結果より、C-1~C-3 護岸計画箇所付近において、当初想定されていないような特徴的な地形・地質が確認された。その特徴を概説すると、海底より大きく隆起した地形を取り囲むように、大きく凹んだ谷地形が形成されている。隆起した箇所 (B-30~B-32) の地層は、サンゴ礫混じり土が地表面より 15m 程度堆積し、その下位に更新世の石灰質の礫質土が 20~30m の層厚で、非石灰質の砂質土が 20~30m の層厚で堆積している。更にもその下位に、基盤層である嘉陽層が分布している。一方、谷地形 (B-26, B-28) の地層は、非常に緩い・軟らかい谷埋堆積物 (砂質土, 粘性土) が層厚 40m と非常に厚く堆積し、その下位に主に非石灰質の礫質土が層厚 20~30m で堆積し、基盤層の嘉陽層と続く。

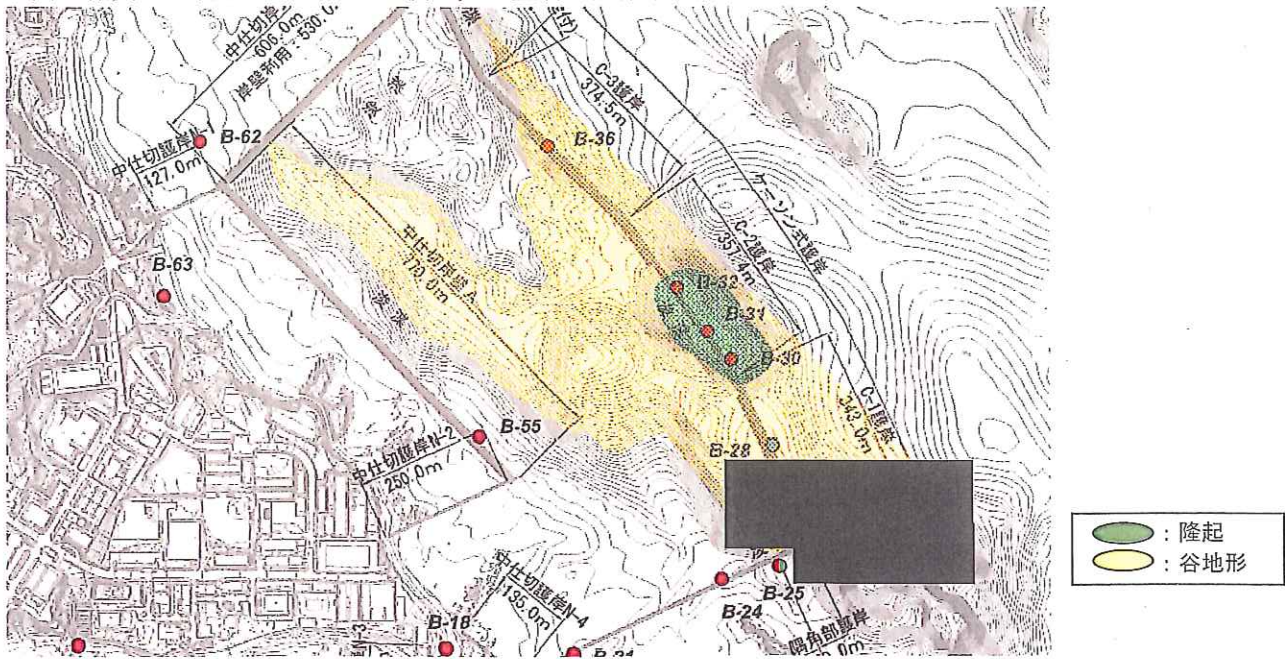


図-7.2.1 特徴的な地形の平面図

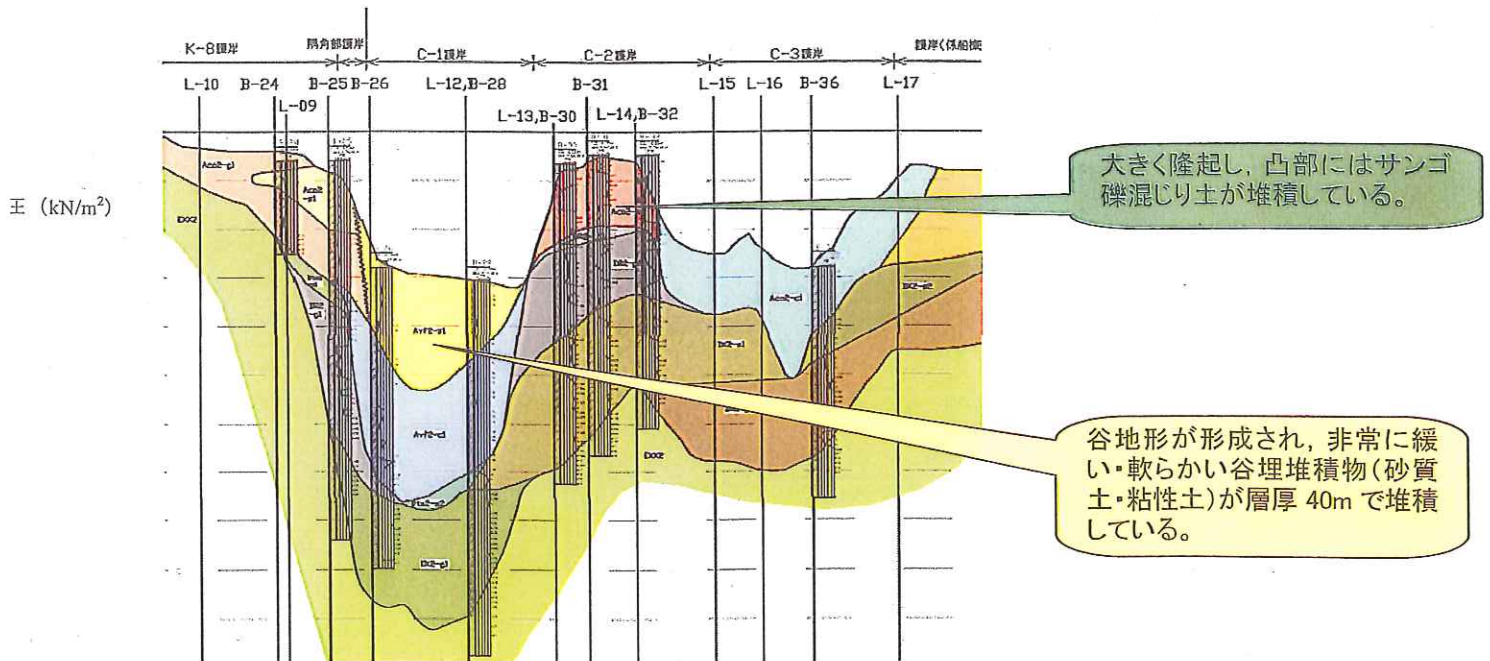


図-7.2.2 特徴的な地形の地質断面図

シュワブ (H25) 地質調査 (その2)

Ⅲ. 谷埋め堆積物

前述したように、C-1 護岸計画箇所付近には大きく凹む谷地形が形成されており、そこには非常に緩い・軟らかい谷埋堆積物である砂質土、粘性土が堆積している。N値は、上位の砂質土 Avf2-s1 層で 0~18 (平均 5.4) , 下位の粘性土 Avf2-cl 層で 0~13 (平均 1.6) を示し、N値 0 を示すものも多い。

以上のことから、特に当該地においては、構造物の安定、地盤の圧密沈下、地盤の液状化の詳細検討を行うことが必須と考える。